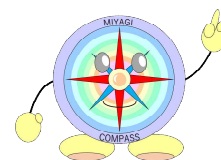


ユニバーサルデザインについて

「ユニバーサルデザイン」については、障害者の権利に関する条約第2条定義において「調整又は特別な設計を必要とすることなく、最大限可能な範囲で全ての人が使用することのできる製品、環境、計画及びサービスの設計をいう。ユニバーサルデザインは、特定の障害者の集団のための補装具が必要な場合には、これを排除するものではない。」と記されています。

「ユニバーサルデザインを意識した授業」とは、特別な教育的支援が必要な児童生徒だけではなく、全ての児童生徒にとって「分かる・できる授業」を行うことです。



○交流学級での「ユニバーサルデザインを意識した授業」

| 教師が行う手立て（例） | ねらい |
|--|---------------------------|
| 1回に1つの指示にする。 | 確実にを行うため一つ一つ確認できるようにする。 |
| 指示の際、写真や動画を提示するなど視覚化を工夫する。 黒板に取り組む学習活動を掲示する。 準備物や手順をカードに書いておき、それを見せながら伝える。 | 見通しを持たせる。 |
| 説明の後、説明した内容のカードを掲示しておく。 意図的に座席を配置する。（モデルとなる児童生徒、困ったときに関わりやすい児童生徒を近くに作る等） | 指示の聞き逃しがあった場合に確認できるようにする。 |
| 教師や友達のすることを手本として、活動を行わせる。 個別に学習に取り組んでいる時間には、こまめに机間指導をして、学習を支援する。 | 自分で取り組むことができるようにする。 |
| ペアやグループで話し合いをさせる。 | 理解を促す。 |

○教室や交流学級以外の場所での「ユニバーサルデザインを意識した授業」

| 教師が行う手立て（例） | ねらい |
|-----------------------------|--------------------|
| 体育館や校庭等で整列するときに、並ぶ位置に印を付ける。 | 自分の場所を明確にする。 |
| その場所での活動予定を書き、見せる。 | 見通しを持たせる。 |
| 教材を写真に撮り、その場所に貼る。 | 自分で探しやすい、片付けやすくする。 |